

チーム・コヤアラ ロシアスタッフ紹介

チーム・コヤアラでは、共通の志を持つ仲間で助け合うネットワークづくりに取り組んでいます
が、今回ロシアで力強い協力者を得ました。彼らのおかげで今回の展示は大変有意義なものになりました。ここに、ロシアのチーム・コヤアラの仲間をご紹介します。

ナデージュダ・セルキナ（モスクワ）

チーム・コヤアラのスタッフになるのを、光栄に存じます。人生のなかで、人形の素敵な世界に近づいて、人形作家と色々お話できて、自分の考え方も変わってきたという気がします。ですから、出来るだけ人形作家の力になりたいです。（原文日本語）

アニー・モチャロヴァ（モスクワ）

組織というものは興味にあわせてたくさんあり、それぞれ目的が違います。その違いを、チーム・コヤアラにアドバイスしていきたいと思っています。

ヴェーラ・ブラソヴァ&ユーリ・ボドコパエブ（モスクワ）

こんなに創造的なチームの一員になれることを、とても嬉しく思っています！このお話は、この一年で一番のプレゼントでした。どうもありがとうございます！

これからは互いの会話を通して、相手の文化と作品への理解をより深めることができるようになるでしょう。ロシア人にとって、現実と幻想、動と静、素材への探求と美意識が融合した日本の美術作品はとても魅力的なものです。美術家は自分だけでは発展できません。過去の先人たちが残した素晴らしい遺産から学んでこそ、作品を豊かにすることができるのであり、その遺産を維持するのも大切なことです。私たち自身の文化と歴史のアイデンティティも大切です。

私たちの共通のゴールは、作品を紹介しあうことだけではなく、日本とロシアの作家とファンの絆を強く保つことです。

私たちは、ロシアにおけるチーム・コヤアラの企画や展示において必要なものを喜んで用意いたします。そして、ロシアに来られた方にロシアのドールアートへの理解を深めて頂きたいと思っています。ロシアの作家たちと、伝統と革新性のある日本の作家たちとの密接な交流は、真の作家の育成に大きく寄与することでしょう。

エレナ・リシナ（エカテリンブルグ）

Dear members of the Team Koyaala! Watashi wa Lena Lisina desu. Yoroshiku onegaishimasu!（原文のまま）
チーム・コヤアラのスタッフに選んでいただき、とても嬉しいです。私はイギリスの創作人形作家協会の会員だった時にアメリカの作家とも交流しましたが、人形作家には皆共通点があるようです。日本の皆さんとお会いしたときに、共通言語があると感じ、リラックスできました。でも伝統の違いは学ぶに値します。私は文化交流が好きなので、次回のFANTANIMA!で来日するときには、マトリョーシカの講習会をしたいと思っています。

エカテリンブルグの多くの人形作家やパペット制作者は 2012 年にチーム・コヤアラがここで行った展示を素晴らしいものだ記憶しています。どうぞ、皆さん、エカテリンブルグに来て展示や講習会をやってください。チーム・コヤアラの作家の方はいつでも大歓迎です！

NEWS!!

詳細は別添の案内をご覧ください。

- ・チーム・コヤアラ創作人形展 2014 年 9 月に開催予定！
- ・作品の個人講評サービスを始めます。
- ・プロジェクトのご提案、参加者を随時募集します。



今回モスクワでチーム・コヤアラの展示を支えたスタッフたち 左から ナデージュダ、アニー、ユーリ、ヴェーラ

「DOLL MASTER」誌主催コンテスト

ユニヴァーサル・ブーヤンの「ストレイキャット」が
クレイジー賞受賞

ロシアの人形情報誌『DOLL MASTER』は、HELLO TEDDY! で 'TEDDY MASTER'、ART OF DOLL で 'DOLL OF THE YEAR' のコンテストを行いました。両会場で行われたコンテストに、私は審査員として呼ばれました。

HELLO TEDDY! では、ドイツでディエパ・トータル主催する「ジョージ・ティ」と、オルガ・ラヒナ（ドール・マスター編集長）らで審査を行い、10 部門の審査と特別賞を決めました。日本からはユニバーサル・ブーヤンが「クレイジー賞」を受賞、チーム・コヤアラからの「FANITANIMA! 賞」は、愛らしい造形が個性的な新人作家の Anika が受賞しました。

ART OF DOLL では審査方法が異なり、歴代の受賞作家たちと一緒に優れた作品に加点していく方法で審査をいたしました。年間通して最高点を得た作品が表彰されるそうです。今回の会場では、それぞれの審査員による特別賞が発表されました。チーム・コヤアラからは「チーム・コヤアラ賞」を、木彫の人形を出品したセルゲイ・ジガイロが受賞しました。審査員の評価は点数が多くてもやはり同じような作品に集まります。私が最後に迷った 2 作品にも評価が集まっていた。どちらもロシアの風土や文化への愛着を感じさせるものでした。単純にロシア的な衣装やアクセサリーをつけているということからではなく、内部からしみ出てくるような精神性です。今の日本人が日本的なテーマを扱って、こういう思索やウィットのある展開ができる人がどれくらいいるのだろう、と考えさせられました。（羽関チエコ）



HELLO TEDDY! での受賞者と審査員の記念写真 右端が筆者

TOPIC!!

FANTANIMA! で展示したウクライナの作家、ボンダレンコの「チェルノブイリから福島へ」は、放射能被害が深刻だった福島県浪江町の役場に飾って頂くことになりました。結果を紙面でご報告いたします。

コヤアラ・クラブ入会条件

入会金なし 年会費：2000 円（更新時に 2 年分一括払いの方は 3900 円となります。）
年 4 回（1・4・7・10 月）のチーム・コヤアラのニュースレターと DM 便が届きます。

お申し込み方法

年会費 2000 円を以下の方法でご送金ください。
[郵便振替] 通信欄に「コヤアラ入会」とお書きください。
送金先 「口座番号」 00140-7-358370 「口座名」 チーム・コヤアラ
＊ご入金が確認できたらチーム・コヤアラよりハガキで受領証と会員証を兼ねたお知らせをお送りし、次の号から「コヤアラ通信」をお送りします。更新時には、有効期限内の最後の号を発行するときに、更新のお知らせを同封いたします。

DM 同封希望の方（発行月から 3 ヶ月の間に展覧会を予定されている方）

事前に枚数などお問い合わせの上お申し込みください。同封 DM は発行月の前月 20 日にチーム・コヤアラ必着でお送りください。
同封料金 コヤアラ・クラブ会員：2000 円 一般（非会員）：3000 円

紙上展応募の方

会員の方の人形の自作品の写真を受け付けております。
17 号×切 2014 年 3 月 1 日（必着）
封筒に「紙上展」と明記の上、次の資料を事務局まで郵送でお送りください。

作品写真 2~3 点（全体・アップ・裸形） サイズ：ハガキ大。
「会員番号」「作家名」「タイトル」「素材」「サイズ」他、簡単なコメントなど。
＊何点でも応募できますが、誌面の都合上掲載はお一人 1 点になります。
＊応募作品はウェブ上で公開されることもあります。（講評は紙面のみ掲載）
＊応募書類は返却いたしません。

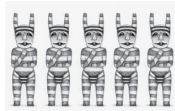
個人情報について

頂いた個人情報はチーム・コヤアラの業務委託を受ける HAZEKI office が厳重に管理します。名簿はチーム・コヤアラのニュースレター発送に使用させていただく他、チーム・コヤアラの趣旨に沿って DM クラブ会員にとって有意義と判断した情報を伝達する以外には一切使用せず、チーム・コヤアラ以外の第三者が閲覧、使用することは一切ありません。

各お申し込み・連絡先

チーム・コヤアラ
東京都東村山市久米川町 3-27-57 HAZEKI office 内
TEL 042-395-7547（担当 ハゼキ）
FAX 042-395-7975
URL <http://www.ab.auone-net.jp/~koyaala/>
Email team_koyaala@yahoo.co.jp

KOYAALA 通信 編集責任者 羽関チエコ (HAZEKI office)
©KOYAALA TSUSHIN 2010, printed in Japan 本紙記載の記事・写真の無断使用・転載を禁じます。



KOYAALA 通信 No.16

Jan.1, 2014



「KOYAALA 通信」は、チーム・コヤアラがコヤアラ・クラブ会員に発行するニュース・レターです。年 4 回発行 発行日（予定） 1 月 1 日、4 月 1 日、7 月 1 日、10 月 1 日

謹賀新年 今年もよろしくお祝い申し上げます

12 月のモスクワ イベントリポート

文・羽関チエコ

第 4 回 ART OF DOLL

2013 年 12 月 12 日～ 15 日 (Gostiny Dvor) 主催：ドールワールド財団

第 1 回、2 回の「マネージ」中央展示会場から移転を余儀なくされた 3 回目は都心から離れた会場に移り出品者から不興を買い、4 回目は再びモスクワ中心地に会場を戻しました。それもガイドブックには赤の広場のページに必ず載っている Gum 百貨店の隣です。会場規模も若干縮小し、入場前に並ぶ行列こそ見えませんでした。人形美術を展示、鑑賞するのは落ち着いた環境となりました。オルガ・ロエルのような常連のトップレベルの出品がなくなっても、次にまた奥の深い表現で新人が出てくるのは、ロシア周辺の人形文化の潜在力を感じざるを得ません。バエヴァのようなロシアのベテラン勢は、どれももしっかりした世界観と技術で、創作性に磨きをかけています。ナタリア・ポベディナは彫塑的な作品で人気がありますが、布を使った作品でも、同じように張り詰めた緊張感のある造形ができることを見せました。

ヨーロッパの創作人形では人気を博したヒムシュタッドなど会社を成した一流作家が次々に引退するなか、グンツェルはじめウェザーなどドイツ勢が気を吐いて頑張っています。また、昨今のジョイント・ドールブームで、関節をアピールする作品も出てきました。ファッションドール的なサイズのものとは世界共通のイメージですが、中～大型の作品は日本のように美少女的なものは少なく、造形やデザインでポップアートのようなアプローチをしているようでした。

チーム・コヤアラの展示ブースでは、ユニバーサル・ブーヤンと新家智子さんが出品。また一週間前に開催された HELLO TEDDY! の出品作品も展示を行いました。会場では、新たにチーム・コヤアラのスタッフとなったヴェーラ・ブラソヴァ夫妻やナディア・セルキナさんの献身的な協力で、来場者と密にコミュニケーションをとり、充実した展示となりました。

ユニバーサル・ブーヤンはバンダイとコラボレートしてファッションドール「桜奈」を制作したユニットチームです。美しいボディラインと関節の可動性、扱いやすさを追求したオリジナルのドール・キットを使いながら、カスタマイズの方法のマスタークラス（講習会）を行いました。

第 5 回 HELLO TEDDY!

2013 年 12 月 5 日～ 8 日 会場：T-スクエア 主催：アンタレス・エキスポ

予想はしていましたが、HELLO TEDDY! の出品作家たちのぬいぐるみ作品のレベルは高いものでした。日本ではディエパ関連のイベントでは、伝統的なスタイルが主流ですが、ロシアや近隣国から 200 を超える出品者が集って見せる作品はどれも創作色を打ち出しています。技術的な不足感を感じる出品者はほぼ皆無。プロが競い合う場となっています。しかし目をこらしていけば、定型の技法に独自の演出を加えたり、ジレンキナやスマガのような人気作家の作風を自分流にアレンジしようとする努力が見られます。もちろんジレンキナ、クダジョヴァのような人気作家も出品しています。モスクワ市街中心よりちょっとはずれたティシスカヤにある会場は、来場者にも出品者にも親しみやすい場所のようで、連日凍てつく雪模様の悪天候にも拘わらず、多くの子供連れの家族、恋人や友達同士で賑わいました。

このたび、チーム・コヤアラは主催者により特別招待をいただき、会場入口入ってすぐのガラスケースに今年の FANTANIMA! 出品作家作品を展示させて頂きました。会期中にはテレビ取材を何度か受けましたが、「日本の作家はなぜ、こんなに個性的なのですか？」という質問を受けました。私から見ると、ロシアの作品も個性的に見えるので、答えに困りました。

しかし厳冬のロシアでこの展示会に通いながら、「暖かさを感じさせるもの」がロシアの人にかに愛されているか、重要かということ、文字通り身をもって感じました。

日本からの出品作家（敬称略・順不同）
山口景子・Noe・kimiko・コリスミカ・立川好江・影山多栄子・kusabon・Universal Pooyan

写真上 ユニバーサル・ブーヤン「桜（ウサギ）」(ABS、PVC 樹脂) 約 28cm

写真左 FANTANIMA! 賞 Anika の作品 約 10cm

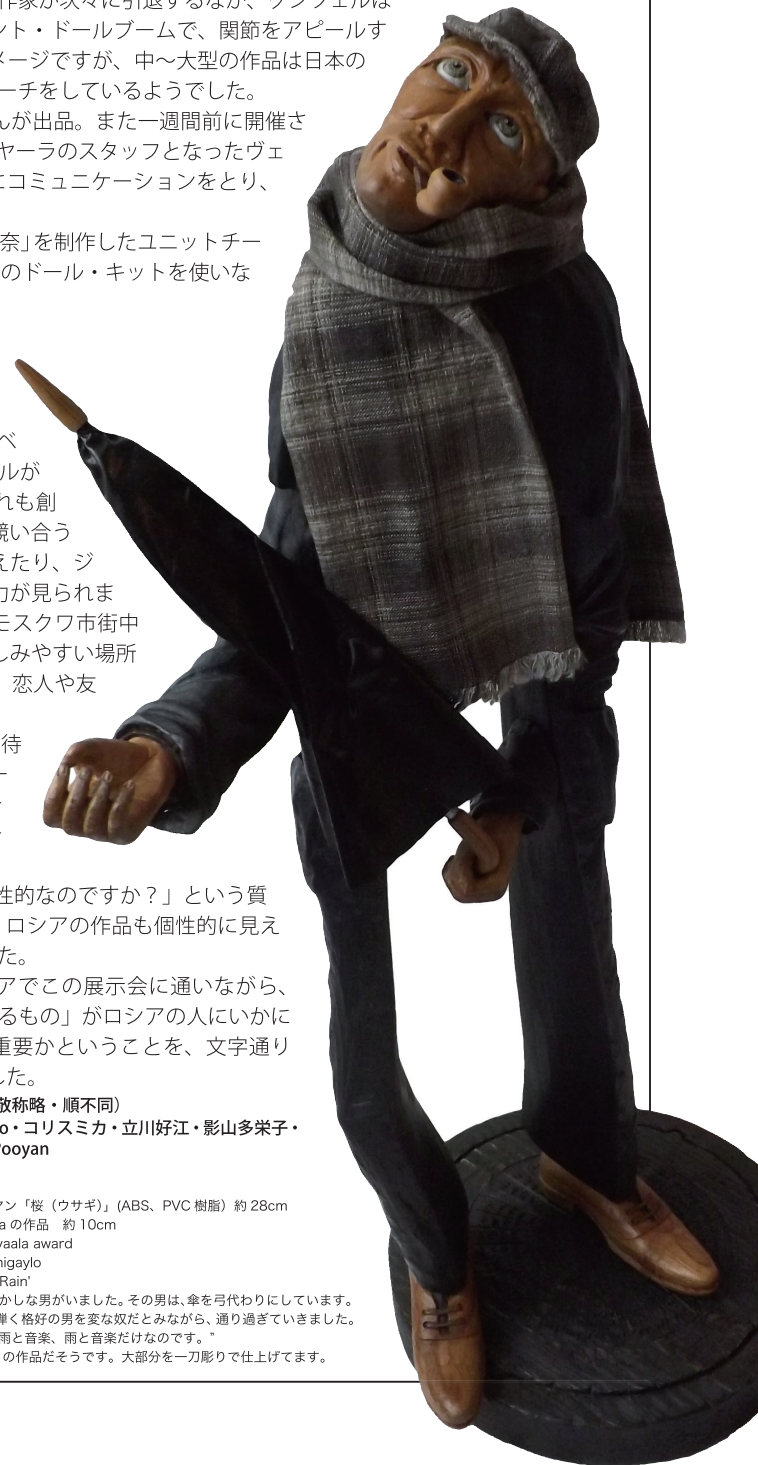
写真右 チーム・コヤアラ賞 Team Koyaala award

セルゲイ・ジガイロ Sergey Zhigaylo

「バイオリン・レイン」(木、約 50cm) "Violin Rain"

「雨の音楽を、想像のバイオリンで弾いているおかしな男がいました。その男は、傘を弓代わりにしています。通り過ぎる人は、雨に濡れながらバイオリンを弾く格好の男を変な奴だとみながら、通り過ぎていきました。でも男は気にとめません。ただ、大事なのは雨と音楽、雨と音楽だけなのです。」

このアイデアがいきなり湧いて、作ったのがこの作品だそうです。大部分を一刀彫りで仕上げています。





ART OF DOLL

写真左上から時計回りに
1.会場（Gostiny Dvor）、2.「IMPANING」クリスチナ・バッサ（ロシア）、3.ナタリア・レビヒナ（カザフスタン）、
4.「そして何も起こらなかった」オルガ・ミジン・エグベツツ、5.ヒルデガルド・グンツェル（ドイツ）



5



4



2



3

HELLO TEDDY!



10



9

ロシアの展示を経験して

今回、ロシアに出品された方の感想です。

- 1 ロシアで展示をした感想：
- 2 チーム・コヤーラの活動への感想、希望など

ユニバーサル・ブーヤン（村井芳典・福枝夫妻）

1 ロシアの皆さんのドールに対する純粋な熱意を、とても感じました。マスタークラス（講習会）も、大変楽しかったです。会場もとても広く、美しく感動しました。是非、またロシアの展示に参加させて頂きたいと思います。

2 今回は、貴重な機会を与えて下さって本当に感謝しております。とても刺激になりました。チーム・コヤーラのロシアスタッフの皆さんにも大変親切にして頂き、個人の活動では味わえない、チームの団結力の素晴らしさ、絆の強さと温かさに感激しました。お陰様で、素晴らしい体験が出来ました。今後の活動の中で、我々も何らかの形でチームにお役に立てるよう、頑張りたいと思います。

新家智子さん

1 ロシアの地を踏むまでは、私の小さな作品を手放す事は、正直考えていませんでした。ですが、様々な他国の大作が並ぶ中、自分の小さな作品にも足を止め、小さな笑



写真上 左からユニバーサル・ブーヤン（村井夫妻）、新家智子さん
写真右 新家智子作品、左から 別れ（像立ち）、「小さな人形さん」
※新家さんは、コヤーラ人形展に展示した3点を展示。当初発売でしたがロシアの人々に深く気に入られ、それぞれお客様に引き取られていきました。



みを浮かべつつ真剣に観て下さる老若男女の方々。名も知らぬ作家の作品に、温かい言葉や眼差しを下さって、本当に感激いたしました。いつしか私の子（人形）の気持ちを感じて下さり、愛おしく思っ下さる方に、「譲ろう」と素直に思えるようになっていました。もっともっと、響く人形を作りたいと思わせてくれました。観て下さった方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

2 気取らず作家と作品を第一に考えられているコヤーラの姿勢は、素晴らしいと思います。今回通訳の方を置いてくださって、本当に助かりました。ロシアはもちろんですが、他国の方々の生の声が聴ける展覧の機会があると嬉しいです。

M I D O W展 2013 2013年11月3日～5日 御堂筋ホール心斎橋（大阪市）

アールリベ人形学院を主宰する三上りあんさんが中心となり、隔年で行っている全国人形公募展。作家であり指導者でもある三上さんが、理想を追い情熱を傾ける企画でもある。試行錯誤を重ね、2回目を迎えた今回の内容を本人が振り返る。

～方程式はまだ途中～

三上りあん

御堂筋の、燃え立つ紅葉にもう一息早い銀杏並木は、まるでM I D O W展のようだ。成熟を待つ一葉一葉が205坪の会場に300点集い、美しい季節の一角を染める。2011年に次いで今回が2回目である。

人形はあなたにとって何であろうか？ わが身から生み落とした別人格の存在と見る愛玩物だろうか？あるいは映し身としての叫びを背負うものだろうか？

表現形態は違おうが共通するのはつくり手の意識無意識の色合いの結果である。形の、形を超える色合いを感じたい～M I D O W展の主点である。

意識は具象に反映され、無意識は象徴をもって具象を抽象の意味合いとする。鳥かごは本来の具象の意味以外に幽閉された感情の象徴としても表出する。審査の視点がそうした広範なものとなるよう、半数は毎回交替とし、今回は画家の山本

じん氏、映画美術監督の星恵恵子氏の他、ポーズ人形は石山ヒロ子氏、球体関節人形の山吉由利子氏など、表現形態もその質も違った構成としている。M I D O W展は常に反動する振り子だ。定点にはない。揺れ続ける限り新しい風が起き、刹那の風が連綿と燃れたとき、普遍の糸となる。M I D O W展の審査員は重労働である。講評カードによる点数化と喧々譁々の討議、その間8時間。16点の入賞作品が決まる。今回の審査では大賞が2名となった。

吉村眸さんの作品はアート性が、藤本晶子さんの作品は愛玩を目的とする作品のとしての完成度が評価された。優劣は出されなかった。どんな答えも普遍の中では刹那の泡でしかない。審査員の冷静な愛情がそこにあった。

審査員は絶妙な投球をするピッチャーである。その

投球の泡立ちにさいなまれ、感受性をもってどう取るか？ 野球のキャッチャーのように、知恵者は応募者でなければならない。

今回とても気になる作品があった。惜しくも賞を逃したが稲葉春日さんの「神様の言うとおりの」である。宇宙に無数の雨粒が満ちて、もっと声高に主張すればいいものを人形はあくまでもちいさく半透明で向き合っている。体中から糸が出て「2本だけ相手の指に絡めてください」と展示の指示が添えられてあった。

山本じん審査委員長が「人間のあかちゃんっているでしょ？ あれは人形のあかちゃんみたいなんだよ」涙が出そうになった。表現者へ応募者からの贈り物のように想えた。神様の言うとおりの。その言葉が染みる。人は簡単にものを分かったがる。簡単に道を進みたがる。今回具象を具象のみに直

訳してはならないと言う課題が残った。方程式ははまだ解けてはいない。造る者も見る者も、その解釈を無意識の領域まで広げなければならないだろう。委員長が言われた。「具象自体よりも、象徴の方が意味は濃いんだね」そこに新しい風はある。

（2013年12月記

M I D O W展主催者
アール・リベ主宰）

文中写真：稲葉春日「神様の言うとおりの」



大賞 吉村眸「サーカスのぼうや」



大賞 藤本晶子「四季を呼ぶ子」

ドールワールドリミテッド 「業界を元気にしたい！」

12月15日 東京都立産業貿易センター 主催 ドールワールド実行委員会

「ドールワールドリミテッド2013」に、今回もチーム・コヤーラは参加させていただいた。通常のドールワールドの半分の規模のイベントだが、同センター内で同時開催されている「東京ビスクドールフェスティバル2013」との相乗効果もあり、会場の雰囲気は人形好きの多くのお客様で賑わっていた。主催者の小川氏によれば、「今回のリミテッドは通常のドールワールドより出品条件を緩和し、多くの人に気軽に関わっていただける機会を」という趣旨で開催されたとのこと。小川氏自身もめいぐるみや人形を収集されることから、まだ見ぬ作品や作家との出会いの場となるのも重要なテーマなようだ。その意味では、出店者以外の人でもチラシやDM等を設置出来る特設コーナーが設けられていたのは斬新。これは教室を運営している人や、展示を控えている作家等にとっては宣伝の良い機会になるし、チラシを設置したついでに買物や交流がされれば、それが今後の出品にも繋がってゆくこともあるだろう。更に今後の展望として、ドールワールド閉幕後も引き続き出品者とお客様が繋がれる場を期間限定で何か設けられれば、とも述べられていた。「多くの作家さんに関わっていただき、業界を元気にしたい」。人形を作る作家にとってはとても心強い言葉をいただきつつ、コヤーラに対しても、記憶に残る面白い作品を引き続き世界中から紹介して欲しいとのこと。作家の広い交流をモットーとしているコヤーラとしても、共に協力関係を育てることが出来れば幸いである。

（文・西村 FELIZ）



上：賑わう会場 下：チーム・コヤーラの出展（左から中村周子、立川好江、西村 FELIZ）

◇海外のイベントへの出品・見学にご関心のある方へ

・HELLO TEDDY! URL www.helloteddy.ru 今年の開催は同会場で12月4日から7日。数ヶ月で枠が埋まってしまうそうです。

・ART OF DOLL URL www.artofdoll.ru/ ドールワールド財団では、年間を通して人形に関する様々なイベントをしています。

※出品に関心のある方は、各URLより直接応募になれます。また、チーム・コヤーラ事務局を通して出品や見学をご希望の方は、ご相談をお受け付けいたします。会場がモスクワの場合、現地のスタッフがお手伝いをさせていただきます。